

ご ち によらいざ ぞう
92. 五智如来坐像

■ 指定日

昭和57年10月9日

■ 種別

有形文化財 彫刻

■ 年代

江戸時代中期

■ 所在地

朝来市石田

■ 所有者

金剛院



■ 内容

金剛院五智堂に安置される木造寄木造、漆泊の坐像5軀。

中央の金剛界大日如来は享保14年(1729)、右の阿弥陀如来と釈迦如来は寛保元年(1741)に、左の阿闍如来と宝生如来は、宝暦3年(1753)にそれぞれ京都から丹波路を経て持ち込まれている。平安様式で作られた江戸時代の仏像で、規模が大きく彫りもよい。

阿弥陀如来は、享和3年(1803)の記録によれば、当時日本48阿弥陀のうちの第29番札所の阿弥陀として挙げられている。